

研究課題名	原発性肺癌における呼吸機能低下が予後に与える影響
研究責任者名	広島大学大学院医系科学研究科腫瘍外科学 教授 岡田守人
研究期間	2022年8月(許可日)～2025年12月
対象者	2007年1月から2021年12月の間に、広島大学病院呼吸器外科および呉医療センター・中国がんセンター呼吸器外科で原発性肺癌による手術を受けられた患者さん。
意義・目的	肺切除後には術後呼吸機能が低下することが知られていますが、その長期の低下が予後に影響しているかは明らかになっておりません。今回術後呼吸機能低下が予後に与える影響を検証します。それによって、術式選択や術後呼吸器リハビリの対象者の選別の指標となり、肺癌予後の改善につながると考えられます。
方法	<p>本研究は、診療録(カルテ)情報を調査して行います。</p> <p>カルテから使用する内容は年齢、性別、喫煙歴、喫煙指数、併存疾患、術前CTにおける腫瘍径、画像上の肺気腫・間質性変化の有無、血液検査(CEA、シフラ、SCC)、術前後呼吸機能(FEV1.0、%FEV1.0、VC、%VC、FVC、DLCO)、術前PET-CTのSUV値、臨床病期、術式、切除部位、手術時間、出血量、術後合併症、術後ドレーン抜去期間、癒着療法の有無、病理学的組織型、術後補助療法の有無、病理病期、再発の有無、再発後治療内容、無再発生存期間、全生存期間、死因です。</p> <p>カルテから氏名や住所等の個人が識別できる情報を削除し、誰の情報かわからないよう加工したデータを解析に用います。呉医療センター・中国がんセンターにおいても、同様に誰の情報かわからないようにデータを加工し、ロック機能のついたメモリースティックに保存して本学の研究者が直接受け取ります。(個人を特定可能な情報は解析に用いません)</p>
共同研究機関	<p>研究代表機関</p> <p>広島大学大学院医系科学研究科腫瘍外科学 研究代表者 教授 岡田守人</p> <p>共同研究機関</p> <p>呉医療センター・中国がんセンター呼吸器外科 研究責任者 科長 三村剛史 研究機関の長 病院長 下瀬省二</p> <p>広島大学に情報を集め広島大学(坪川 典史)が解析します。</p>
試料・情報の管理責任者	広島大学 教授 岡田 守人
個人情報の保護について	調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。

問合せ・苦情等の窓口

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-5869

広島大学病院 呼吸器外科 職名 助教 坪川 典史